



阿宮地区の人口 ※上出西1を含む

	R6.2月末 (前月末比)	R5 2月末
世帯数	143戸(±0)	144戸
人口	391人(-2)	394人
男性	173人(-1)	174人
女性	218人(-1)	220人

4月のクラブ活動

- ・暁俳句会 4月 6日(土)
- ・グラウンド・ゴルフ 毎週水・土曜日
- ・習字クラブ 4月 5日(金)
19日(金)
- ・フォークダンス 4月 1日(月)
- ・阿宮川柳会 4月17日(水)
- ・ビーズの会 月1回
- ・カローリング 月2回程度
- ・阿宮神能会 月2回程度
- ・あぐ花の会 4月28日(日)

4月のおもな行事

- ・4月 8日(月) 青バト出発式
- ・4月10日(水) ふれあいサロン
- ・4月21日(日) 阿宮地区自治協会総会



もえないゴミの日 ★水曜日です★

- 4/3 埋立ごみ 飲料用空き缶
- 4/10 ペットボトル
- 4/17 破砕ごみ
- 4/24 空きびん

天寺平廃寺講演会

保科 ひろみ(下1)

3月2日(土)出雲弥生の森博物館の花谷浩館長より「古代仏教と天寺平廃寺」と題して講演を聞きました。

天寺平廃寺の標高は207メートル、斐伊川からの比高は約180メートルと誰も行かない山中だった為、荒らされずに残っていたとのこと。軒平瓦の文様をみると七世紀後半ごろの建造物ではないか、天寺平廃寺は四天王像を祀るためのお堂だったのではないかとまだわかっていないことも多いようです。

遙か昔、かなり立派な寺院がつくられたこと、なぜこの阿宮だったのか、これから色々研究が進み新しいことも分かってくるのでしょうか。私たちの住むこの阿宮に、このように歴史のある遺跡があることをたくさんの人に知ってもらい大切に保存して行きたいと思います。



阿宮の宝保存事業

NOSAI島根 斐川地域事業推進協議会様

パイプ TENT一式を寄贈

地域活動や災害時において避難所や応急医療拠点として、地域の安全・安心を確保するうえで有益であることからコミセンに寄贈いただきました。



コミセン災害対策備品 (一部です)

非常食	500食	ヘルメット	22個
飲料水	48L	発電機	2台
毛布	10枚	延長コード(ドラム)	4台
簡易トイレ	20個	レインコート	17着
段ボールベット	1台	ハロゲンライト	1台
エアークッション	20個	梯子	2本
間仕切りテント	4張	カセットコンロ	1台
間仕切りシート	1枚	携帯浄水器	1個
簡易テント	2張	ポリタンク	4個
トイレットペーパー	24個	ランタン	2個
大人用紙オムツ	60枚	拡声器	1台
ティッシュペーパー	10箱	ろうそく(8時間)	20本
		乾電池	104個
		安定ヨウ素剤	2000丸
		安定ヨウ素剤ゼリー	100包

「阿宮の宝保存事業」天寺平廃寺整備を振り返って

(事業の目的と概要) この事業は、出雲市の令和4年度及び5年度における、出雲市の「元気!やる気!地域応援補助金」を活用して、昭和61年(1986)阿宮コミセン上方で発見された天寺平廃寺について探究することで地域の古代にロマンを感じ、整備活動を通じ地区住民の「ふれあい」や歴史を学ぶことで若者の郷土愛や後世に引き継ぐことを目的とした。

(経過) 平成31年1月発行された「阿宮・上出西の真」発行者である故 保科幸治氏と会員が踏査されているが、余りにも進入路や寺院跡の形状が不明確であった。令和4年4月荒神谷博物館の副館長内田律夫氏や穴道年弘企画監と現地を踏査され、貴重かつ整備をすることで風光明媚な視野が広がる助言をされた。

(進捗) 令和4年度は早速、地域応援補助金30万円が採択され、山林所有者の承諾、進入路など地元の方の理解、協力を得た。一方でプロジェクトの会員で伐採作業や進入路の整備をされ、立栗山からの斐伊川や上津地区が眺望できるようになった。また、看板の設置も施行された。

(講演会等) 令和4年度は穴道年弘企画監の講演、荒神谷博物館の「阿宮の古代寺院天寺平廃寺」スポット展の見学などを実施した。また、リーフレットを作成し各コミセンや地区内に配布した。

令和5年度は穴道年弘企画監による現地説明会、妻木晩田遺跡、上淀廃寺跡の見学や、「古代仏教と天寺平廃寺跡」と題し、出雲弥生の森博物館館長の花谷浩氏の講演会を開催された。

引続き伐採作業や看板の設置が施され、一層眺望が開け地区内外の方が訪れられることを期待します。

なお、令和5年度の補助金は、阿宮の宝保存事業として城平山事業にも充当された。

(今後) 標高は200メートルであるが、登山道が急こう配の場所もあり掴まる手すり等があると、より安全に登下山できる。定期的な管理をとまう。瓦の文様から時代を想像したり、妖精「てんじびラビット」のロゴを広める活動を共有したい。

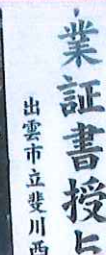
(結論) この2年間の事業は、阿宮地区は出雲市でも小さな地域で、少子高齢化が顕著であるが、地域の連携や繋がりでやれることが実行された証となった。

文責 運営委員会 会長 山田 勉

阿宮っ子



中学校卒業
笠谷葉月さん(上阿宮3)



小学校卒業
笠谷津久美さん(上阿宮3)

写真は保護者さんからの投稿です。

アルミ缶はリサイクルステーションへ!

2月分アルミ缶回収量

15kg(※先月30kg)

来月も引き続きご協力をお願いします
出雲市環境保全連合会阿宮支部



裏面にも記事
がありますので
ご覧ください。

発行日: 令和6年(2024)3月21日
発行: 阿宮コミュニティセンター 総務部
☎699-0611 出雲市斐川町阿宮 2323-2
☎0853-72-9142/fax0853-72-9152
Mail: agu-cc@local.city.izumo.shimane.jp

城平山頂上看板除幕式に参加して

阿宮の宝保存事業

三加茂 政信(上1)

3月10日に城平山頂上看板の除幕式が開催され、私もスタッフの一員として参加しました。イベント当日は晴天に恵まれたこともあり、出雲市内外から100人の参加者が集まりました。一行は『上阿宮ルート』を朝9時に阿宮神社を出発し11時頃に城平山の山頂に到着しました。

看板の除幕式では、延命寺の福田快富住職(下3)による法螺貝の音色を合図に、当日参加した12名の小学生が紅白のロープを引き、看板を覆っていた白布が外れると、縦70センチ、横120センチの真新しいステンレス製の看板が姿を現し、山頂は拍手喝采に包まれました。

阿宮の宝保存事業として看板材料を仕入れ、三加茂忠義さん(上1)をはじめ有志の皆様のおかげにより東西の展望所に看板を設置できました。山頂に登る道すがら、会員みんなで行ったこれまでの樹木の伐採、登山道作り、ロープの取付など思い起こされました。残念ながら体調不良の為、忠義さんは参加されませんでしたが、「見事な看板」、「素敵な看板」といった声が多く寄せられて本人の苦労が実ったと感じました。スタッフ一同、充足感に満たされました。

参加者から「大変感動的なイベントだった」「大人数での登山イベントの楽しさを味わえた」「法螺貝の音色を初めて聞いた」の声に今後も登山道の整備、維持管理をととして、阿宮地区の魅力を発信していきたいと思っています。



県道斐川上島線工事見学会

県道斐川上島線改良促進委員会 会長 星野 勉

3月2日(土)、(株)フクダ様のご厚意により斐川上島線工事の見学会が開催されました。当日は気温も低く風もあるなかでしたが、45名のみなさんにご参加をいただき嬉しさでいっぱいでした。ありがとうございます。

トンネル内の879メートルを歩いてみたいという皆さんの希望に応じていただき、伴走車にライトを照らしていただきながら貴重な体験をすることができました。そして、三路側の工事の状況に道路高はどのくらいで、どこに繋がるか歩いて降りて確認しながら、穴戸様をはじめ関係者の皆様には丁寧に工事の説明をしていただきました。

工事も順調に進んでおり令和8年度中には全線開通の予定ですので、もうしばらく心待ちにお待ちいただきたいと思います。



和鏡見つかる

上阿宮2自治会の防火水槽設置工事現場から和鏡が見つかりました。鉄くずだと思い捨てていたのですが、洗って見たら昔の鏡ではということになったそうで、現在は出雲市文化財課に保管されています。畑の表土は土地改良工事により阿宮地内から運ばれ敷かれたものですが、どここの場所からなどは不明です。埋蔵文化財係によると「和鏡で室町時代のもの、裕福な家か武士の家のものだろうと思います」「大きさは約9センチ、中央に亀、下部に湖、右側から上部には松、左側に2羽の鳥が描かれています」とコメントをいただきました。



ご奉仕お礼 3月19日(火)

笠谷博反さん(上4)にコミセン庭の松とツツジを剪定していただきました。お陰様で伸び放題だった松が大変きれいになりました。ありがとうございました。



ふれあいサロン

3月13日(水)

なのはな園の吉岡亮真さんに認知症予防のお話しと手指の運動を教えてくださいました。吉岡さんのユーモアたっぷりのお話しに皆さん大笑いしながら元気いっぱい体を動かしました。何かをしながら何かをする。他の人と一緒にすることが長く続ける秘訣だそうです。



映像句会

黄規ガ
砂給ラ
降朝ス
る日
るに
山細
も織
知光
る細
も水
遠脈
くを
し引
てく

山 中 藤
田 島 原
勉 か や 景
の の 子

阿宮川柳会

温ワ手
もりク袋
をワの
そク母
とがの
と溢温
とれも
とだ日
他人す本
にお一
裾聞
分けと
け

は保福
ら科田
とし紫
あき苑
柳